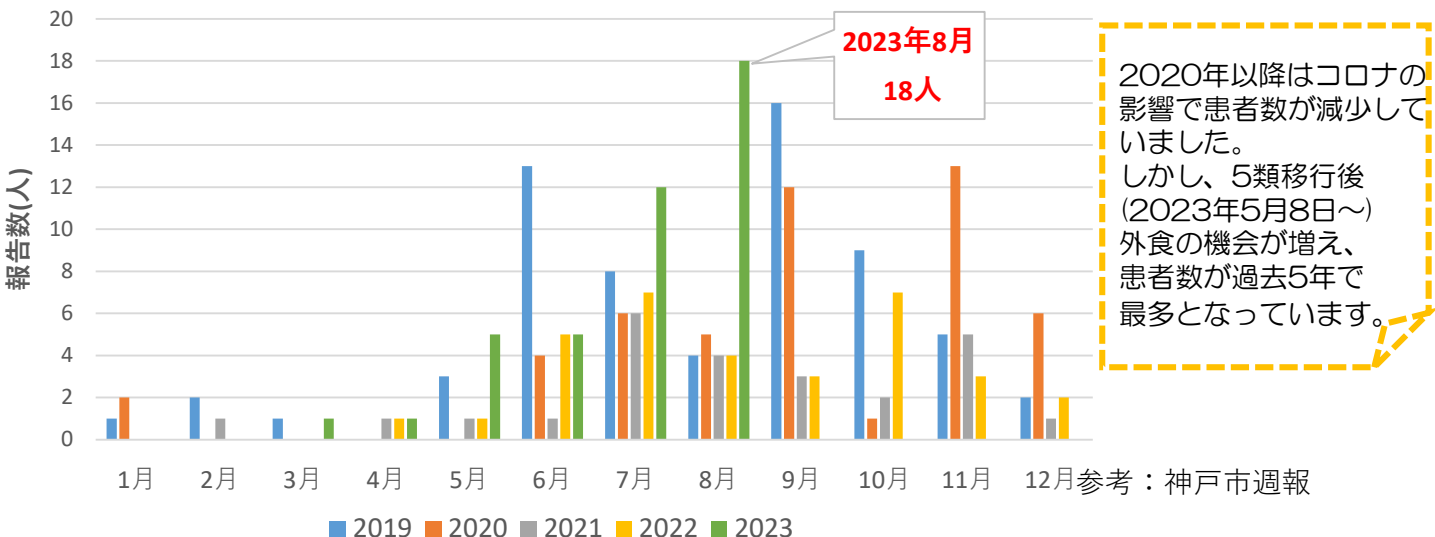




# 腸管出血性大腸菌感染症に要注意！！

Vol.2

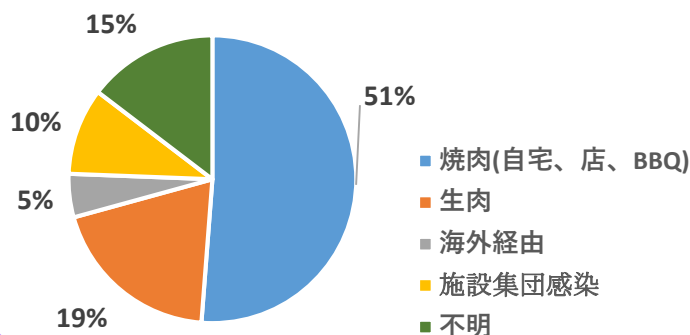
腸管出血性大腸菌感染症 患者数



腸管出血性大腸菌感染症の症状は下痢、腹痛、血便、発熱等です。感染から3～5日経過した後、激しい腹痛を伴う下痢症状(血便を伴う場合もある)がみられます。

血便がでるなど腸管出血性大腸菌感染が疑われる症状が出た場合には、早めに医療機関を受診してください。

2023年 感染推定原因内訳



感染原因の70%が焼肉や生肉です。食中毒を予防するため、生やタタキ等加熱不足の肉類を食べることは絶対に避け、よく加熱して食べましょう。



## 《焼肉・バーベキューなどをするときのポイント》

- 十分に加熱し、生焼けで食べないようにする。
- 生肉を焼く tong、焼けた肉を取る tong を分ける。
- 生肉を切ったまな板や包丁を洗わずにほかの食材を切らない。使った後は洗剤でよく洗い、熱湯や漂白剤で消毒しましょう。
- 生肉を触った後は石鹸を使って手洗いをする。

※子どもが肉を焼くときは保護者が見守り、子どもだけで焼かせないようにしましょう。